

地学と切手



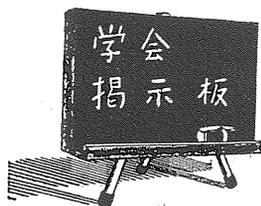
フライベルグ 鉱山学校
200年記念切手 P. Q.

南ドイツのフライベルグは古くから鉱工業がさかんで 1765年世界最初に創設されたフライベルグ鉱山学校 (Freiberg Bergakademie) はウエルナー (A. G. WERNER) の水成論の時代には世界地質学のひとつの焦点であった。ウエルナーは中央ヨーロッパ・パリスカン北部をなすサクソニー地方で現在のパリスカン造山帯中核部の花崗岩を地球の初源海洋から海底に化学的に沈澱したものとみなし、ハットン (J. HUTTON) の火成説と対立した。この鉱山学校は今も健在で第2次大戦中はメーネルト (MEHNERT) らが詳細なシヴァルツヴァルトの岩石学的な研究を行ない、ミグマタイトの研究の古典的な地域のひとつになっている。

この切手は4枚1組で1965年11月13日に発行された。10ペニヒの精錬炉、15ペニヒの採鉱運搬の図、20ペニヒの淡紅銀鉱 Proustite (Ag_3AsS_3)、25ペニヒの硫黄結晶の図からなっている。この絵からみると昔から乾式法で鉛あるいは銀に吸収させ、灰吹法にかけて精製する方法がとられていたらしい。しかし働いている人々の服装は何か中世を連想させ、それが錬金術師のイメージと連なる。鉱山業そのものは名実共に健全な錬金術であったわけだが、一方では魔法じみたいんちき臭い錬金術が暇をもてあました貴族の館やうす

暗い修道院の中でさかんに行なわれていた。こうした錬金術の世界でも生産に直結していた部分は健全に発達し、近代工業化へ大きく貢献し、また新しい科学技術の発達に役立って来た。

錬金術の中では水銀がその様々な変態の故に重要視され、それと結びついている硫黄も大切な気であるとされた。彼らは辰砂を焼いて水銀を分離すると銀と称し、また水銀と他の金属とでアマルガムをとり、銀の量が増したと考えた。ここにとり上げられた硫黄と淡紅銀鉱は、そのような錬金術と関連してとり上げられたわけではないのだろうが、錬金術師の普通のやり方で本当の銀をとり出すことの出来る鉱石である。淡紅銀鉱の赤の美しいものは「ルビー銀」とよばれ珍重されている。



・Asian Regional Conference, International Association of Hydrogeologists

1. 1971年8月18日(水) ~27日(金)
2. 国際水文地質学会アジア地域会議
3. 東京

1. 昭和46年8月24日(火) ~29日(日)
2. 日本地学教育学会第25回全国大会
3. 東京都立教育研究所及び東京学芸大学
4. 日本地学教育学会
5. 東京都小金井市貫井北町 東京学芸大学地学教室内
日本地学教育学会 ☎(0432) 21-1741

4. 日本地下水学会
5. 川崎市久本135 地質調査所水資源課内
日本地下水学会 ☎(044) 86-3171 (代)

・International Summer School on Crystal Growth

1. 1971年6月21日(月) ~7月20日(金)
2. 結晶成長国際夏の学校
3. オランダ ライデン市近郊
Leeuwenhorst Congresscenter, Noordwijkerhout
4. 同上組織委員会
5. Dr. P. Hartman, Geologisch en Mineralogisch Instituut der Rijksuniversiteit, Garenmarkt 1B, Leiden, The Netherlands

・日本地球化学会

1. 昭和46年10月15日(金) ~17日(日)
2. 1971年地球化学討論会
3. 日本都市センター (東京都千代田区平河町)
4. 日本地球化学会・日本化学会 共催
5. 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所化学研究部内 日本地球化学会事務局
☎(03) 337-1111 (内線75)

・日本岩石鉱物特殊技術研究会

1. 昭和46年7月28日(水) ~30日(金)
2. 第14回研究発表会 金属 非金属 構造地質 耐火物等の薄片 研磨片の作成に関する講演会
3. 名古屋大学理学部地球科学教室 名古屋市中千種区不老町
4. 5. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
川崎市久本135 地質調査所内 ☎(044) 86-3171

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者
5. 連絡先 (掲載順位は原稿到着順)